

# 命奪ひの戦争イヤ

「握りしめられた小手がしおりに触れながら、おつりの手に銃を持たせたくない」と強く心に誓って會ってきた。『障害者・患者の会』が会員に講演した「NO WARオンライン・リレートーク」で、それを訴えた全盲の女性がいます。岸田政権による軍事費削減など、昨今の震災は何を願うのか。

(津久井佑希)

自分が語る言葉で、全盲の菅野恵子さん(64)=和歌山市=

市へ迎えてくれました。周囲の助けを借りながら、2人

の夫婦を育て上げました。周囲の誕生記念は高妊娠し

あつたが出産には至らず、長

決意の裏には出産の数年前

男は難産でした。

「こんな思いをして産んだ子だ、人の命を奪つたり奪わ

れたりさせたくない。戦争だけは嫌」。遠隔がもつれると

する中で出産し、そう決意しました。

それは、菅野さんが平和運動を始めたきっかけになりました。

運動のきっかけ

動き始めたきっかけになりました。

た藤野高明さん(84)=大阪

市=の存在です。

藤野さんは一歳のとき兄弟

と遊んでいた不発弾の爆発で両目と両耳を失いました。

血のどじむような必死の勉強と運動を経て盲学校教諭になつた人です。

藤野さんと同じ盲学校教諭だった菅野さん。「藤野さんば、戦争がなければ障害者にならじとはなつた。それでも諦めないと」やがすりい。大学生の頃に友人の勧めで『反戦』を読んだ藤野さんの著書の衝撃を振り返ります。

憲法学び自信に

「もしもの時は周囲から『障害者は人に迷惑をかけないよ

う』などと云ふのがよくて、このHPから視聴であります。



9条の会のリレートークで訴えた全盲の女性

菅野恵子さん(64)=和歌山市=



「ここ」と書かれて青ちまし  
た。それでも大学で学んで教  
員になり、結婚し子どもを育  
てました。視覚障害があつて  
も就職して子育てる人たち  
に出会つたり、社会科の授業  
で憲法を学んだりするなかで  
自尊がつきました。

「人は障害があつても必ず  
ても平等に人権が保障されて  
いるところのが、私たち障害  
者が生きてる上での基本」だと  
感じてこまか。

「平和がなかつたら基本的  
人権も何もない」。オンライン  
・リレートークでは、物価  
のほか、岸田国公政権が  
軍事費を5年間で4兆円なし  
止めじてくふんじくの横の  
を語りました。

現在Y.M.C.Aで日本語医学  
を中国人やペトナム人、イン  
ドネシア人の生徒に教えてい  
ます。元同僚で中国人の人もい  
ます。「軍事費を増やすこと  
が平和につながることは思えな  
い」。憲法の條を持つ國として  
外交で平和的に問題を解  
決する」とを語みます。

「女性が命懸けで産んだ命  
が簡単に失われる社会は嫌」  
との強い思いから、子育てし  
ながら障害者運動や平和運動  
を続けてきました。「地道に草の根で。まずは自分の子どもを。それから友人をと、一人ずつ教えていくしかない」



オンライン・リレートーク  
は『障害者・患者の会』  
のHPから視聴できます。